

日付：2004年8月19日

提出元：NTT 東日本

題名：3.5km～5.0km のユーザは、JJ100.01 第2版どおり保護すべきである。

## 1. はじめに

SBB 殿は、寄書（SMS-11-14）により、同社が提供する ADSL（8M/12M/26M）ユーザが、3.5km（0.4mmPE 換算線路長）以遠にいないことを理由に、長延化方式を適用する換算線路長を 3.5km 以遠とすることを提案している。

本寄書は、3.5km（0.4mmPE 換算線路長）以遠に、弊社 ADSL（8M）ユーザが存在する事を示し、3.5km～5.0km（0.4mmPE 換算線路長）のユーザについても、JJ100.01 第2版どおりスペクトル適合性評価を行い、保護することを提案するものである。

## 2. 加入者分布

弊社の ADSL 加入者(8M)は 3.5km(0.4mmPE 換算線路長)以遠においても存在している(図1)。

また、メトリック加入者線路損失分布においても、3.5km(0.4mmPE 換算線路長)以遠のユーザは全体の7%おり、ADSL の潜在ユーザであるとも言える(図2)。

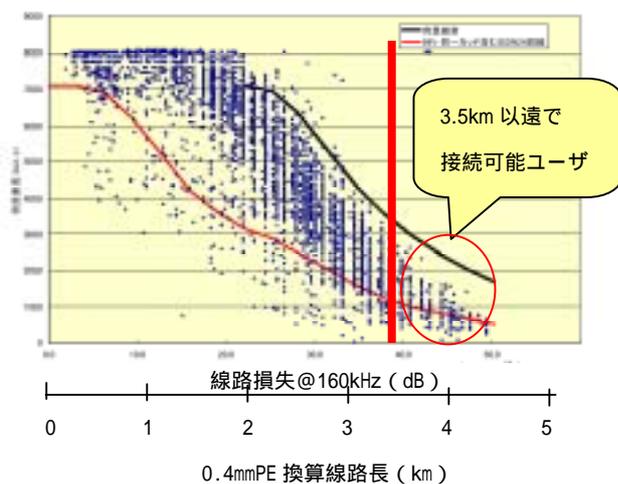


図1. フレッツ・ADSL8M 下り速度分布

出展：DSL作業班資料2011-DSL3-14

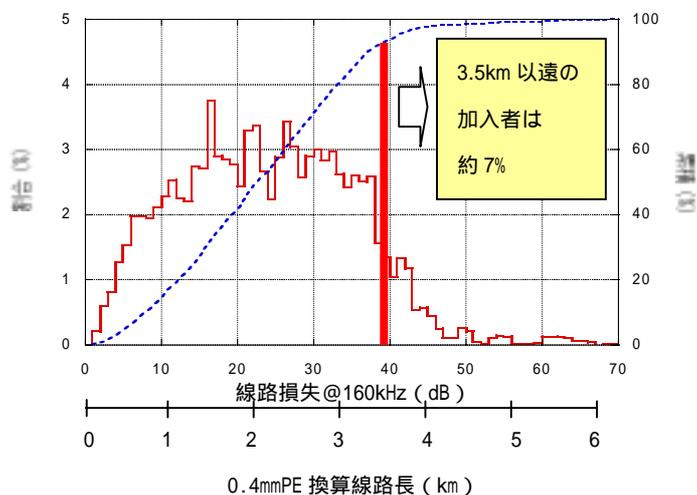


図2. 線路損失分布(全国平均)

出展：DSL作業班資料2011-DSL7-18

### 3. 結論

本寄書では、3.5km (0.4mmPE 換算線路長) 以遠に、無視できない規模の ADSL ユーザ及び ADSL 潜在需要が存在することを弊社 ADSL 加入者分布 (8M)、マルチ加入者線路損失分布から示した。

3.5km (0.4mmPE 換算線路長) 以遠を長延化方式適用範囲とした場合、LD-TIF や G-Boost のスペクトル適合性の確認が完了している長延化方式よりも高いレベルの PSD を用いる方式が導入される可能性があり、それら伝送システムにより、これらの ADSL 回線がリンク断する可能性がある。従って、3.5km ~ 5.0km における既存 ADSL ユーザの保護の観点から、JJ100.01 第 2 版のとおり、5.0km まで従来通り保護すべきと考える。

#### [ 課題表 ]

C.2.2.3	オープン	規制の限界線路長を 3.5km までとするか？	SMS-08-14 , SMS-11-14
---------	------	-------------------------	-----------------------

以上